

地域で自然との触れ合いイベントを開催しませんか？

福岡市は脊振山や油山、立花山などの山々、多々良川や室見川などの河川、耕作地や市街地が広がる福岡平野、博多湾とその沿岸地域などさまざまな自然があり、それぞれの場所でさまざまな生きものが暮らしています。「自然との触れ合い」といえば、山や海など自然豊かな場所のイメージが強いと思いますが、街中にもたくさんの生きものに触れ、自然を感じることができる場所がたくさんあります。

身近な場所での自然との触れ合い体験を仲間や参加者を募って開催してみませんか？

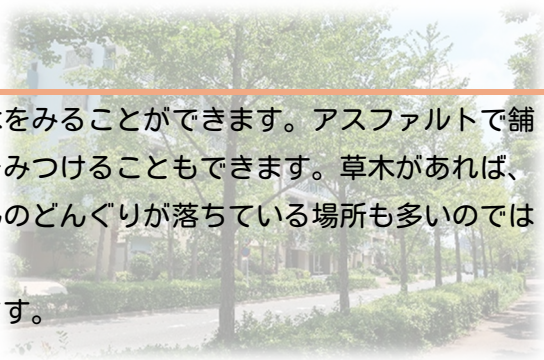
自然との触れ合いイベントは自然や生きものに詳しくないと楽しめないと思われる方も多いと思いますが、そうでもありません。生きものの名前や雑学を知る、伝えることだけが触れ合いではありません。知識はなくても、意識して自然と触れ合い、じっくりと観察するだけで生きものの特徴や違いに気づくことができます。そうすると、いつも生活している空間がまた少し違った見え方に変わってきますよ。



～街中の自然～

街中を歩くと街路樹のクスノキやクロガネモチなどさまざまな樹木をみることができます。アスファルトで舗装された道もよく見ると、その割れ目からたくましく生える草花を見つけることもできます。草木があれば、そこには虫や鳥も集まります。秋、近くの公園にいくと、たくさんのどんぐりが落ちている場所も多いのではないのでしょうか。

街中でも意識して歩くことでたくさんの自然を感じることができます。



<触れ合いイベント>

◆ 樹木を探そう

樹木といっても探すものはさまざまで、葉や実の形や色、木の幹の模様など目の付け所を変えるだけで無数に探すことができます。木には冬に葉をすべて落とす木（落葉樹）と冬も緑の葉をつけたままの木（常緑樹）などもあり葉の形や分厚さが違いますし、秋から冬の落ち葉もよく見るとさまざまな種類の落ち葉が混ざっています。こうした違いに気づくことも1つの自然観察イベントに繋がります。落ち葉や木の実を使ったクラフトや樹木の名前を調べて樹名板を設置するのも人気のイベントです。



◆ 街中ウォークラリー



1か所ではあまり多くの自然を感じることができなくても、少し歩きながら探していけばたくさんの自然に出会うことができます。いくつかの公園や神社など、場所ごとに「ギザギザの落ち葉」「赤い木の実」「セミの抜け殻」などを探しながらめぐるのもよいのではないのでしょうか。道中の街路樹なども観察しながら歩くと、よく知っているはずの身近な地域でも新しい発見につながります。

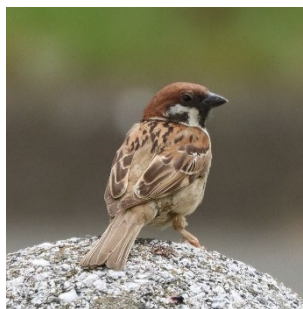
<観察できる生きもの>



クスノキ



カタバミ



スズメ



クマゼミ

～水辺～

魚やカニなどと触れ合うことができるのが川や海など水辺の環境。網をもっていけばたくさんの生きものを採集することもできます。水の中だけではなく、水辺にもたくさんの生きものが隠れていますよ。また、冬にはカモなどたくさんの鳥たちが集まる場所でもあります。大きな川や田んぼの脇を流れる水路、池、干潟、海、水辺といってもさまざまな環境があり、それぞれの環境でみられる生きものは異なります。

雨のあとや潮の満ち引きがある場所は、水の量が多かったり、流れが速かったりととても危ない場所になりますので十分に注意しましょう。

<触れ合いイベント>

◆ 生きもの採集



網とバケツを持って、生きもの採集に出かけましょう。水の中を泳いでいる生きものだけではなく、石の下や草木の茂みの中などにたくさんの生きものが隠れています。目に見えているものだけではなく、隠れたたくさんの生きものをぜひ見つけてください。見つけた生きものをじっくり観察し、スケッチしてみるのもよいのではないのでしょうか。

◆ 野鳥観察

冬の水辺は野鳥観察に最も適した場所になります。水面にはたくさんのカモの仲間が浮かび、水際の岸の上にはサギの仲間が休息していたりします。福岡市の鳥にも指定されているユリカモメの飛び回る姿をみることができるかもしれません。双眼鏡をもって野鳥観察に出かけてみてください。白黒の鳥、赤いくちばしをもつ鳥、頭が緑色の鳥など、よく見るとさまざまな色をみることができますし、よく潜る鳥がいれば、潜らずに水面で逆立ちしている鳥もいますので、行動に着目しても楽しいです。



<観察できる生きもの>



ミナミメダカ



ハクセンシオマネキ



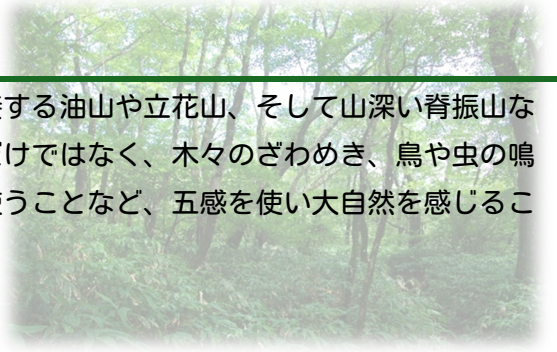
カブトガニ



クロツラヘラサギ

～森～

鴻巣山、南公園といった市街地の中にみられる森や、市街地に近接する油山や立花山、そして山深い脊振山などさまざまな森があります。木々に覆われた森の中に入ると視覚だけではなく、木々のざわめき、鳥や虫の鳴き声といった聴覚を使って感じることや草花のにおいなど嗅覚を使うことなど、五感を使い大自然を感じることができます。



<触れ合いイベント>

◆ 自然の音を感じる



春の午前中、森の中ではヤマガラやキビタキなど鳥のさえずり（鳴き声）で賑わいます。夏から秋は虫の季節。セミの声、コオロギの声、さまざまな声を聴くことができます。

目と口を閉じて、聴くことに集中してみると、驚くほど多くの声（音）を聴くことができます。

どんな音が聴こえたかを言葉で表現してみると、人によって表現がさまざまに楽しいですよ。

<観察できる生きもの>



スダジイ



モミジ（イロハモミジ）



ヤマガラ



ヒラタクワガタ



～自然との触れ合いイベントを開催しよう～

当日に突然イベントを開催しようとしても簡単にはできません。

事前に企画等の準備をしっかりと行うことで、安全に楽しいイベントを開催することができます。

ここではイベント開催までの流れを紹介します。

(1) イベントの企画

① 日程・場所・募集対象を決める

- いつ、どこで、こういった題材で開催するかを考える。

例) (時期から決める) 秋に開催したい ⇒ 紅葉などの自然の色を題材にしよう
(場所から決める) ●●公園で開催したい ⇒ たくさんの花が咲くから春に開催しよう
(内容から決める) 魚とりをしたい ⇒ 水に入るなら夏に開催しよう

- 対象年齢を想定する。(小学校低学年、高学年、中学生以上、大人など)

広く募集をかける場合は、低い年齢層の参加者も楽しめる内容を考えましょう。

親子を対象として、家族ごとでの探索や工作を行うことも楽しいですね。

② 現地の下見

- 地域の自然を調べて、題材となる対象を見つけましょう。
- 集合場所(集まれる広い場所)、移動経路、危険箇所、立ち入り禁止場所などを確認しましょう。

大人には安全でも、子どもにとってはとても危険な場所もあります。募集年齢に合わせた視点で確認しましょう。広い場所であれば、イベントで使用する範囲も決めておきましょう。

<危険な場所>

木の根が張り出しているような森の中、足元がよく見えないような草むら、川などの流れが速い場所や深さのある場所、干潟のような泥に埋もれる場所など、自然の中には危険な場所がたくさんありますので、十分に気をつけて活動しましょう。

街中の場合は、自然を意識しすぎて、車や自転車などの接近に気づかないこともありますので、車通りの多さや歩道の有無も確認しておきましょう。イベント時は周囲の状況にも注意し、邪魔にならないように気を付けましょう。

<危険な生きもの>

自然のなかには、危険な生きものもたくさんいます。

毒ヘビ(マムシ、ヤマカガシ)やスズメバチ、セアカゴケグモのように毒のあるものだけではなく、ケガにつながるようなトゲのある植物などもありますので、注意しましょう。



③ イベントプログラムの作成

- 具体的なイベント内容を決める

イベントタイトル : ●●公園の秋をさがそう

内容 : ●●公園でどんぐりなどの木の実や紅葉した葉、キンモクセイの香りなど、秋を感じることでできる自然をさがす

- 時間配分と内容を整理して、スケジュール表をつくる

移動時間は参加者に合わせて想定しましょう。

- 募集人数をきめる

安全に対応できる人数を決めましょう。

募集年齢が低い場合は保護者同伴にすることで安全性も向上します。

- 役割分担、人員配置を決める

内容を説明する人、受付対応をする人、移動時等の見守り体制などを決めましょう。

- 屋外イベントの場合は雨天時の対応も考えておきましょう。

イベント中止、屋内イベントへの変更、変更時の連絡体制も考えておきましょう。

<イベントスケジュール例>

時間	イベント	主担当		アシスタント		備考
		名前	内容	名前	内容	
〇:〇〇	スタッフ集合 事前ミーティング 会場準備	●●	設営	●● ●●	設営 資料準備	
〇:〇〇	参加者集合	●●	出欠確認	●● ●●	受付 会場内案内	
〇:〇〇	イベント開始	●●	挨拶・企画説明	●●	挨拶 移動の準備	簡単な自己紹介 準備物:〇〇、〇〇
〇:〇〇	移動	●●	先導	●● ●●	中間 後方	
〇:〇〇	観察開始	●●	説明	●●	観察の準備	準備物:〇〇、〇〇
〇:〇〇	観察終了	●●	説明	●●	集合呼びかけ	
〇:〇〇	移動	●●	先導	●● ●●	中間 後方	
〇:〇〇	イベント終了 参加者解散	●●	挨拶			
〇:〇〇	片づけ 解散					

(2) イベント準備

- 会場の手配（使用許可申請など）

公園などでも多くの人を募っての開催であれば申請が必要なこともあります。場所の管理者に問い合わせ、相談をしましょう。

- 自然観察会参加者の募集（募集チラシの作成・配布）

参加者を集めるにはイベント広報が必要です。チラシ配布、SNSを活用した情報発信のほか、申込の受付体制も整えておきましょう。

申込時には、名前だけではなく、年齢、保護者同伴の有無、緊急時の連絡先なども聞いておきましょう。チラシの当日の服装や持ち物も記載しておくといでしょう。

活動時の服装

自然観察のときは**長袖、長ズボン、帽子、歩きやすい靴**が基本です。

夏は日焼け、冬は防寒対策にもなりますし、転倒時のケガや虫刺され等を防ぐためにも、できるだけ肌を露出しない服装で活動しましょう。ハチ対策として黒い服装も避けた方がよいです。

必要に応じて、軍手や雨具を準備しましょう。

飲み物は十分に持っていきましょう。

- レクリエーション保険（ボランティア行事用保険など）への加入

もしもの時のために、傷害保険や損害保険に加入しておきましょう。

福岡市には市民活動保険制度もありますので活用してください。

- 配布資料、しおりの作成

当日、参加者に配布する資料を準備しましょう。資料を配らなくても楽しめる内容もありますが、資料を使って行うことでより一層楽しむことができる内容もあります。

- 必要物の手配（応急救急キットなど）

イベント中のケガなどに対応できるように応急救急キットは準備しておきましょう。

夏の開催であれば、熱中症対策キットも携行しましょう。

応急救急キット	熱中症対策キット
絆創膏、ガーゼ、三角巾、包帯	飲料水
サージカルテープ、消毒液、使い捨て手袋	経口補水液
はさみ、ピンセット、虫よけスプレー	塩飴・塩分タブレット
かゆみ止め、ポイズンリムーバー	瞬間冷却材
冬はカイロなどの凍傷予防も	冷却用タオル など

<イベント直前の準備>

- 天気の確認

イベント当日の天気を確認し、イベント開催決定などを行いましょう。

少しの雨であれば、カタツムリの仲間やコケの仲間などの生き生きとした姿を見ることができるかもしれませんが、雨風が強い日や雷が鳴っている日の観察は危険です。特に警報が出ているときなどの屋外での観察は控えましょう。(水辺での観察時は前日の降雨などでも増水しているときがありますので注意しましょう。

夏場のイベントでは熱中症に注意が必要です。気温だけではなく多湿にも注意し、こまめな水分補給と休憩時間を確保して予防しましょう。

- 参加者情報の整理

申込情報を整理し、人数や年齢構成を把握しましょう。

必要に応じて班分けなどもしておきましょう。

(3) イベント開催

しっかりと事前準備をしておけば、あとは準備どおりに進めましょう。

安全管理を意識しながらも、参加者と一緒にイベントを楽しみましょう。

- 開始前にプログラム、役割分担、留意事項の再確認
- 参加者の出欠・状況の確認（プログラム遂行が困難な参加者はいないか）
- 参加者と一緒に楽しみながら実行しましょう！
- 観察内容の目的や注意事項は事前にしっかりと伝えましょう。
- 緊急時も慌てずに対応
- 終わった後は「片づけ」「反省会」



自然の色探し

< 時 期 >
通年

< 場 所 >
どこでも可

実施内容

- ・自然の中にある「色」を探してもらう。
- ・身近な環境、自然の中には色々な「色」があることに気付いてもらう。

事前準備

- ・下見を行い、見つけることができる色を確認する。
- ・観察ルート、観察場所などを記したフィールドマップを作成する。
- ・確認できた「色」に対応する生きもの（自然）の資料を作成する。

<準備物>

- ・色の資料
- ・袋
- ・地図
- ・バインダー
- ・筆記用具

当日の流れ

- ① 挨拶・観察会の説明
- ② 色探し
- ③ 見つけた色の発表会

注意事項

- ・鮮やかな生きものの中には危険な生きものもいるため、事前にしっかりと確認し、周知しよう。
- ・夏季の開催時は熱中症対策をしっかりと実施しよう。〔休憩・水分補給〕
- ・単独行動で遠くに行ってしまうことの無いように、探す範囲を決めましょう。

参考

いろをみつけたら、
みつけたもののなまえをかこう！！

そのほかのいろ → → →	あお ・ ・ ・	あか ・ ・ ・	きいろ ・ ・ ・
	みどり ・ ・ ・	はだいろ ・ ・ ・	しろ ・ ・ ・
	ちゃいろ ・ ・ ・	はいいろ ・ ・ ・	くる ・ ・ ・



水辺で遊ぼう

＜時期＞
春～秋

＜場所＞
川・池・田

実施内容

- ・水辺にいる生きものをさがし、観察する。
- ・見つけた生きものをじっくりと観察し、身近な場所に多くの生きものがいることに気付いてもらう。

事前準備

- ・下見を行い、生きものを見つけやすい場所、安全に観察できる場所を確認する。
- ・観察ルート、観察場所などを記したフィールドマップを作成する。
- ・観察できた生きものを調べ、資料を作成する。

＜準備物＞

- ・水辺の生きものの資料
- ・魚捕り網
- ・バケツ
- ・地図
- ・長靴
- ・バインダー
- ・筆記用具

当日の流れ

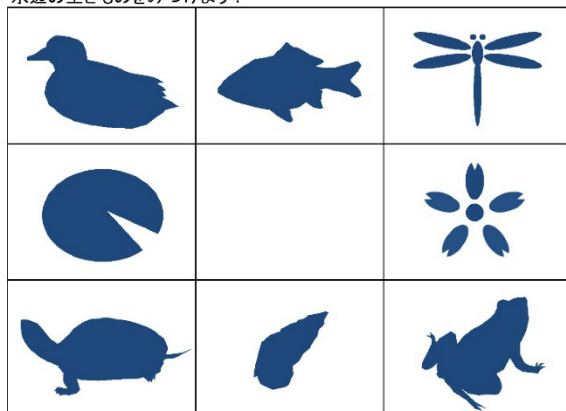
- ① 挨拶・観察会の説明
- ② 水辺の生きものの採集
- ③ 採集した生きものの観察
- ④ 見つけた生きものや気付いたことの発表会

注意事項

- ・水深の深い場所やぬかるんだ場所、滑りやすい場所など危険な場所をしっかりと確認しよう。
- ・夏季の開催時は熱中症対策をしっかりと実施しよう。〔休憩・水分補給〕
- ・水辺にはマムシ（毒ヘビ）などの危険な生きものがいるため注意しよう。
- ・雨天時や降雨後は増水などの危険を伴うため、中止または延期。

参考

水辺の生きものをみつけよう！



水辺の生きもののピンゴ



自然の「音」集め

＜ 時 期 ＞
通年

＜ 場 所 ＞
どこでも可

実施内容

- ・目をつぶって、自然の音をじっくりと聴いてみよう。
- ・普段あまり気にしない鳥の鳴き声や木々のざわめきなど「音」に意識して自然を感じてもらう。

事前準備

- ・下見を行い、自然の音をじっくり聞くことができる場所を確認する。
- ・確認できた音を調べ、資料を作成する（鳥の鳴き声など音の持ち主を調べる）。

＜準備物＞

- ・バインダー
- ・筆記用具

当日の流れ

- ① 挨拶・観察会の説明
- ② 1 分間目つぶって音を聞く
- ③ 聞こえた音の発表会

注意事項

- ・道路沿いなど、人工的な音が多い場所では自然の音があまり聞こえない場合があるので注意。
- ・目をつぶっていても大丈夫な安全な場所を選ぼう。
- ・参加者が目をつぶっている間も周囲を見渡し、安全を確保しよう。

応用編

- ・聞こえた音を文字や言葉で表現してもらえると感覚が共有されて楽しむことができる。

参考

